

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査 結果と対策

会津若松市

## 1 全国学力調査の結果（校種・検査項目ごとの平均正答率の比較から）

### （1）小学校の結果

国語Aは、全国平均を上回る。国語Bはやや上回る。算数はA・Bともに全国平均を上回る。昨年度の国語Aはほぼ同じ、他科目はやや下回るという結果と比較すると、2教科4科目について、すべて前年度を上回る結果となった。

- 国語科では、A問題（主として知識）は全国平均を上回り、県平均をやや上回る。B問題（主として活用）は、全国平均・県平均をともにやや上回る。
- 算数科では、A問題（主として知識）は、全国平均を上回り、県平均をやや上回る。B問題（主として活用）は、全国平均・県平均をともに上回る。
- 国語Aにおいて、全国平均を上回る学校数が5校増加、国語Bは1校減少。  
・国語A：12校(H28)→17校(H29) 国語B：10校(H28)→9校(H29)
- 算数Aにおいて、全国平均を上回る学校数が4校増加。算数Bも4校増加。  
・算数A：12校(H28)→16校(H29) 算数B：11校(H28)→15校(H29)
- 国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、全国平均、県平均を上回るが、「読むこと」は、全国平均・県平均をともにやや下回った。
- 国語Bでは、出題されたすべての領域（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」）で全国・県平均を上回る。
- 算数Aでは、すべての領域（「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」）で、全国・県平均をともに上回る。
- 算数Bでは、「数と計算」、「図形」、「数量関係」の領域で全国・県平均を上回るが、「量と測定」では、県平均をやや上回るが、全国平均を下回る。

## (2) 中学校の結果

国語Aは全国平均をやや上回り、国語Bは全国平均とほぼ同じ。どちらも全国平均を上回る学校数が増加した。

数学A・Bは全国平均を下回るものの、昨年度と比べA・B問題において全国との差が縮まり、改善の傾向が見られる。

無解答率についても、改善傾向である。

- 国語科では、A問題（主として知識）は全国平均をやや上回り、県平均とほぼ同値。B問題（主として活用）は、全国平均とほぼ同じで、県平均ともほぼ同じ。
- 数学科では、A問題（主として知識）は、全国平均を下回り、県平均も下回る。B問題（主として活用）は、全国平均を下回り、県平均もやや下回る。
- 国語Aにおいて、全国平均を上回る学校数が4校増加、国語Bは2校増加。
  - ・国語A：5校(H28)→9校(H29) 国語B：4校(H28)→6校(H29)
- 数学A・Bにおいて、全国平均を上回る学校数は昨年度同様であるが、昨年度と比較し改善傾向。
  - ・上回る学校 数学A：2校(H28)→2校(H29) 数学B：2校(H28)→2校(H29)
  - ・昨年度との比較 数学A：0.3ポイント改善 数学B：2.8ポイント改善
- 昨年度と比較し、無解答率が減少。
  - ・無回答数率（4科目において無回答が全国平均を上回った問題数の割合）  
H28（58%）→H29（23%）
- 国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、全国平均・県平均をともに上回る。「話すこと・聞くこと」は、全国平均、県平均をともにやや下回った。
- 国語Bでは、「話すこと・聞くこと」では全国平均、県平均をやや上回る。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国平均をやや下回り、県平均とほぼ同じである。
- 数学Aでは、すべての領域（「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」）で、全国・県平均を下回る。
- 数学Bでは、「数と式」で全国平均をやや下回り、県平均とほぼ同じ。「資料の活用」では、全国平均・県平均をともにやや上回る。

## 2 児童生徒質問紙の結果（○は、全国・県ともに上回る、●は、ともに下回る）

### (1) 小学校の特徴

【上回る主な項目】新たに本年度上回った項目→※

- 先生は、よいところを褒めてくれる。

- 友達の話や意見を最後まで聞く。
- 家で、自分で計画を立てて勉強する。
- 家で、予習・復習をする。
- 授業の目標（めあて・ねらい）が示されていた。
- 家で自分で計画を立てて勉強している。
- 振り返る活動をよく行っていた。（※）

**【下回る主な項目】 新たに本年度下回った項目→※**

- 平日2時間以上学習する。
- 新聞を読んでいる。
- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をする。
- 学校図書館、地域の図書館に行った。
- 携帯電話等の使い方について、家の人と約束したことを守っている。（※）

**（2）中学校の特徴**

**【上回る主な項目】 新たに本年度上回った項目→※**

- 授業の目標（めあて・ねらい）が示されていた。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、調べたことを発表する等の学習活動に取り組んだ。
- ノートに学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いた。（※）
- 国語の授業は大切だと思う。（※）
- 1、2年生の時に受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった。（※）

**【下回る主な項目】 新たに本年度下回った項目→※**

- 自分には、よいところがある。
- 平日2時間以上学習する。
- 学校図書館、地域の図書館に行った。
- 学校の出来事を家で話す。
- 家の方は学校の行事に来る。
- 携帯電話等の使い方について、家の人と約束したことを守っている。（※）

**3 学校質問紙（教員対象）による分析**

（○は、全国・県ともに上回る、●は、ともに下回る）

**（1）小学校の特徴**

**【上回る主な項目】 新たに本年度上回った項目→※**

- 保護者に対して家庭学習を促すような働きかけをした。
- 年間5回以上校内研修を行った。
- 地域で起こっている出来事を学習の題材として取り上げた。（※）
- 家庭学習の与え方について、校内で共通理解を図った。（※）
- 児童に与えた家庭学習の課題（長期休業を除く）について評価、指導をした。（※）

### 【下回る主な項目】 新たに本年度下回った項目→※

- グループ活動で自分の考えを深めたり広げたりできている。
- 図書館資料を活用した。
- 私語が少なく落ち着いている。
- 学習規律（私語をしない、話す人を見る、授業開始のチャイムを守る）の維持を徹底した。（※）
- 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした。（※）
- コンピュータ、電子黒板等を活用して協働学習、課題発見・解決型学習を行った。（※）

## （２）中学校の特徴

### 【上回る主な項目】 新たに本年度上回った項目→※

- 礼儀正しい。
- 授業の目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた。
- 授業の最後に振り返る活動を計画的に取り入れた。
- 総合的な学習の時間において、課題設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識して指導した。（※）
- 学級全員で取り組んだり、挑戦したりする課題やテーマを与えた。（※）
- 生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ生徒に伝えた。（※）
- 国語の指導として書く習慣を付ける授業を行った。（※）

### 【下回る主な項目】 新たに本年度下回った項目→※

- 図書館資料を利用した学習を行った。
- 保護者、地域の人が学校における教育活動に参加してくれた。
- コンピュータ、電子黒板等を活用して協働学習、課題発見・解決型学習を行った。
- 情報通信技術（パソコン・電子黒板等）を活用して授業を行った。（※）
- 近隣の小学校と教育目標を共有する取組を行った。（※）

## 4 学力向上、授業改善のための対策について

### （１）基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせるために

- 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果分析により課題を明確にし、学校全体で共通理解を図るとともに、具体的な対策や指導計画へ反映する。
- 近隣の小・中学校と教育目標や教育課程等について、小中連携会議等を利用し共通理解を図り、重点等について共通の認識や実践を心がける。
- 振り返りの時間を活用する等、授業との連続性を重視した家庭学習とし、家庭学習の習慣を身につけさせ、学習時間を確保する。
- 他のクラスの授業を積極的に参観し、互いに学び合う機会を増やす。
- 中学校において、改善は見られるものの全国平均と比較し無解答率が高い傾向があるため、原因の分析と対策に努める。

## (2) 思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるために

- 「相手にしっかり話す、相手の話を聞く」等の充実を図るとともに、言語活動を適切に位置づけた単元を構成する。
- 「児童生徒の考えを引き出す工夫をする」
  - ・ 思考の深まりや広がりをもたせるような発問の仕方を工夫する。
  - ・ 電子黒板等ICTの活用を図った授業を工夫することにより、児童生徒の興味関心を高め、児童生徒の多様な考えを引き出す学習活動・形態の工夫をする。
- 児童生徒の考えを引き出した上で、協働的な活動を効果的に取り入れ、話し合いをコーディネートし、話し合いの充実を目指す。

## (3) 主体的に学習に取り組む態度を育むために

- 「児童生徒の『よさ』を見つけ、ほめる」ことを通して、自己肯定感を高める。
  - ・ 授業中に児童生徒が「よさ」を発揮できる活動の時間を確保する。
  - ・ 児童生徒の様子を見取り「よさ」を見つけ、具体的に「認める言葉」で伝える。
  - ・ 児童生徒が相互によさを認め合う「相互評価」の機会を設ける。
- NIEへの取組を充実させるとともに、地域や社会で起こっている問題や学校図書館等の資料を積極的に使用し、学習意欲を高める教材や提示の仕方を工夫する。
- 学習だけに限らず、「やり遂げる」ことの達成感を味わうことができるような教育活動を意図的に実施する。

## (4) その他

### ①会津若松市学力向上推進委員会による対策

- 委員会へ結果を報告するとともに、学力向上策について具体的に検討する。

### ②家庭との連携

- 家庭における学習習慣の定着を図る。
  - ・ 学校教育指導委員会で作成した「家庭学習版学びの心得」の自校化
- 保護者が授業参観や学校行事等に行きたくなるような魅力ある教育活動

### ③地域の人材活用した基礎学力の向上

- 放課後や長期休業中等、地域人材を活用した個別学習の機会を保障する。
  - ・ あいづっこサポートティーチャー、土曜学習「伸びよう！学ぼう！あいづっこ学習会」

## 5 今後の計画について

- (1) 分析結果をもとに、学力向上対策プランの見直しを行う。
- (2) 本調査で明らかになった課題を基にした授業の指導法改善を図る。
- (3) 成果のあった取組や今後の対策の共有化を図る。
- (4) 学校の要望に応じて、学力向上対策に関する個別相談会を実施する。